

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

平成30年 5月 21日

枚方市長 殿



提出者

住 所 愛知県半田市中村町二丁目6番地

氏 名 株式会社 Mizkan
代表取締役 岡田 誠治

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0569-21-3331

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 Mizkan 大阪工場
事業場の所在地	大阪府枚方市春日北町五丁目1番1号
計画期間	2018年4月1日～2019年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09：食料品製造業
②事業の規模	製品出荷額：7,407百万円
③従業員数	174人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1を参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2を参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（平成29年度）実績】

産業廃棄物の種類	有機性汚泥他合計	
排出量	11,964 t	t

(これまでに実施した取組)

- 1) 有機性汚泥は、汚水濃度の増加により、排水処理で発生する汚泥発生量が増加（+255 t）。排出量は目標を超えたが、排水処理の汚泥濃度管理により、発生抑制に努めた。
- 2) 動植物性残渣は、糖化粕、醤油粕及び液状酢粕の有価売却を継続し、発生を抑制した。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	有機性汚泥他合計	
排出量	11,694 t	t

(今後実施する予定の取組)

- 1) 有機性汚泥は、汚水量の予測と、廃酸の場内処理による汚水負荷の均一化を図り、排水処理の汚泥濃度管理にて発生を抑制する。
- 2) 動植物性残渣については、有価売却を継続する。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃プラ、金属くずは分別回収後に資源ゴミとして有価売却。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

基本的には前年度取り組みを継続。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら再生利用を行う予定はなし。			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	9,506 t	t
(これまでに実施した取組)			
汚水濃度の増加に対して排水処理維持安定の為に、汚泥濃度を高く設定して管理した結果、余剰汚泥が計画に対して増加。 計画7,615 t／年→実績10,516 t／年（前年7,854 t／年） 脱水により減量した産業廃棄物量は 計画6,884 t／年→実績9,506 t／年（前年7,100 t／年）			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	9,417 t	t
(今後実施する予定の取組)			
排水負荷（量・濃度）を平準化することで安定的な処理の維持に努めるとともに、汚泥濃度の適正管理により余剰汚泥の発生量を維持する。前年比▲89 tとして設定した。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はなし。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥他	
	全処理委託量	2,458 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1,669 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1,889 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	539 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	1) 産業廃棄物の処理を委託する場合は肥料化・飼料化を優先し、 焼却は最後の手段。 2) 委託先は優良認定企業を優先して選択。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥他	
	全 処 理 委 託 量	2,278 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1,532 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1,716 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	511 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	前年取組みを継続し、処理委託数量を維持する（合計）の目標は、 2,278 t（前年比▲180 t）。		
※事務処理欄			

(第6面)

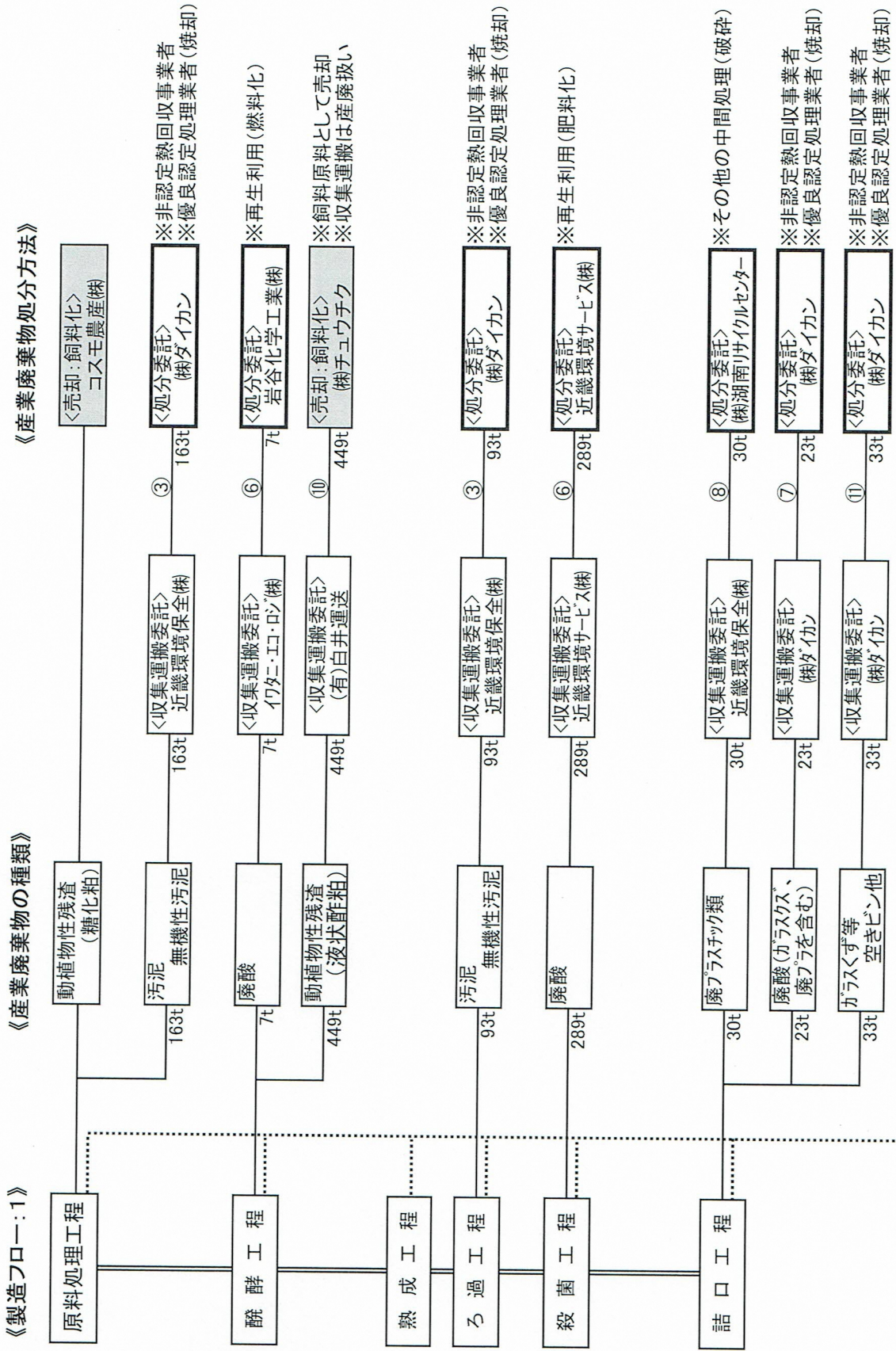
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

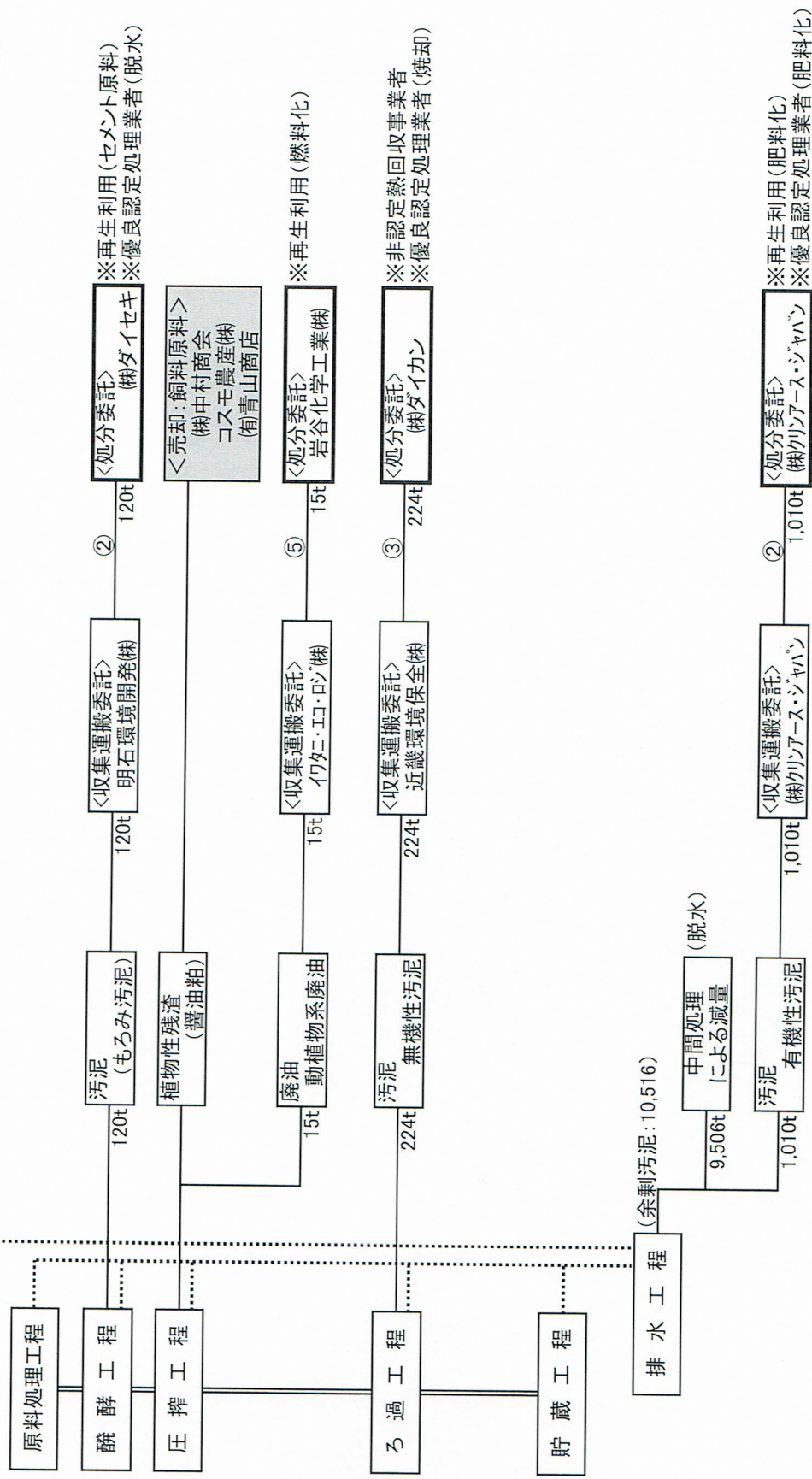
【産業廃棄物発生及び処理フロー】

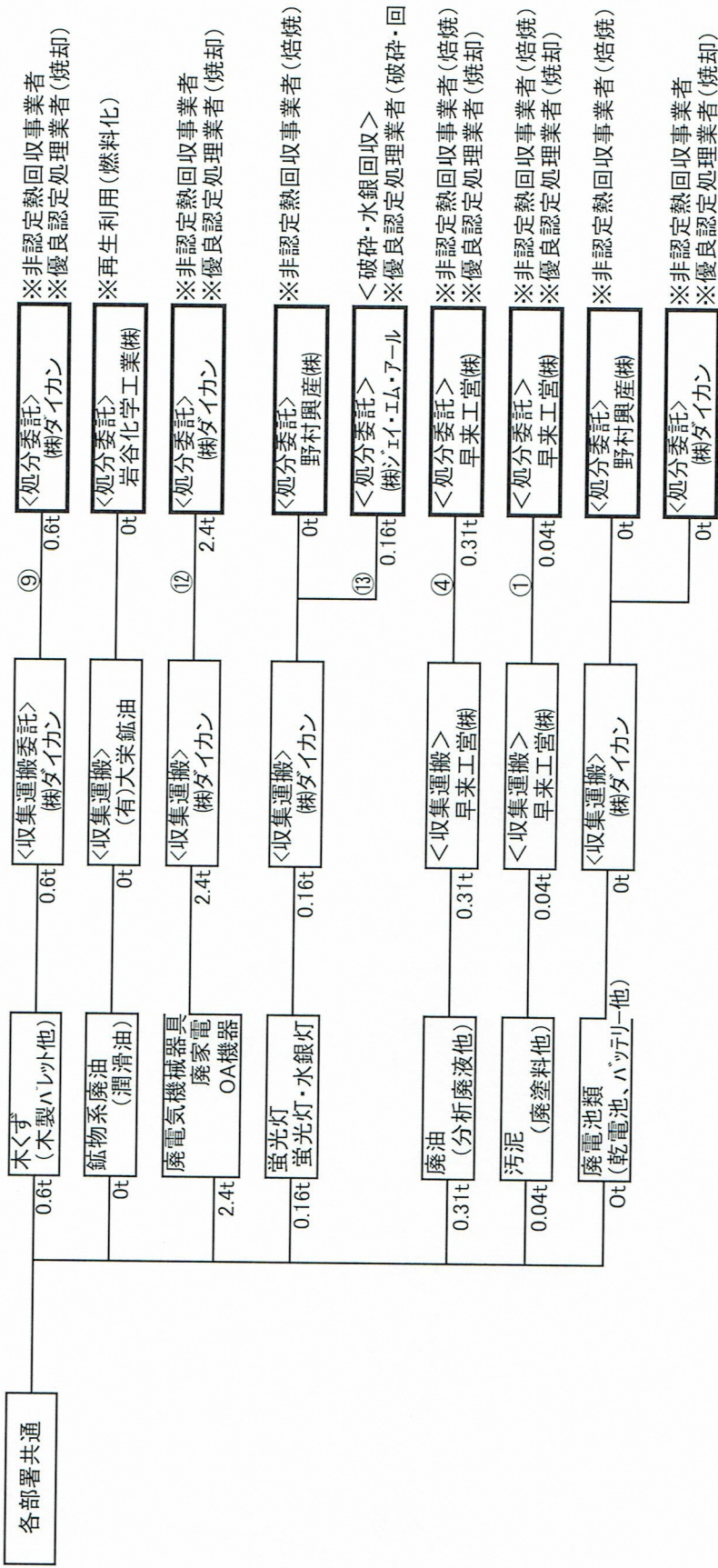
(株)Mizkan 大阪工場

※No.は集計ソートの種類番号
※数字は平成28年度実績(t)



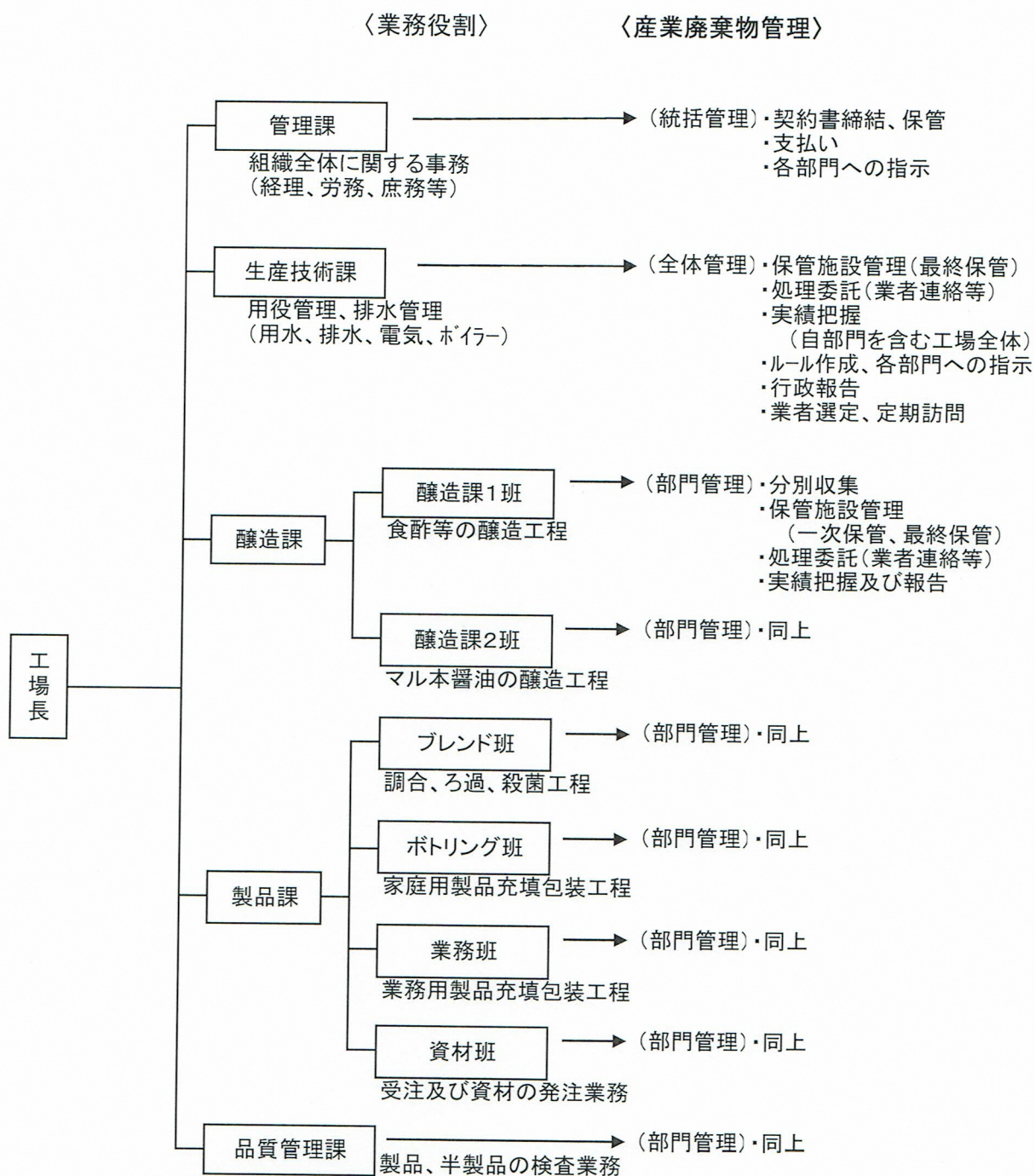
《製造フロー：2》





別紙2 【管理体制図】

(株)Mizkan 大阪工場



[illegible]

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

前 年 度 【平 成 29 年 度】 実 績

住 所	社 名	所 属 部 門	担 当 者 の 氏 名	電 話 番 号	FAX
東京都港区新橋三丁目1番1号	株式会社Mitsumi 本社工場	経営企画部	佐藤 孝一	03-5561-0331	03-5561-5683
〒105-0137					
大塚前校2号棟5号室					

コード	品 名	仕 入										計	
		①仕入品	②仕入品	③仕入品	④仕入品	⑤仕入品	⑥仕入品	⑦仕入品	⑧仕入品	⑨仕入品	⑩仕入品	⑪仕入品	⑫仕入品
1	①汚泥	0.040										0.040	0
2	②有機性汚泥	10,835.981										10,835.981	0
3	③無機性汚泥	479.660										479.660	0
4	④廃油	0.314										0.314	0
5	⑤動植物系廃油	15,240										15,240	0
6	⑥廃液	295.560										295.560	0
7	⑦廃液(カラス、 豚、鶏)	22,730										22,730	0
8	⑧廃ガラス	29,520										29,520	0
9	⑨木くず	0.620										0.620	0
10	⑩動植物性残渣	448.500										448.500	0
11	⑪ガラスくず等	33,130										33,130	0
12	⑫廃電機機器	2,370										2,370	0
13	⑬蛍光灯	0.160										0.160	0
14													0
15													0
16													0
17													0
18													0
19													0
20	合計	11,963.805	0.000	0.000	10,515.521	0.000	1,009.490	9,508.031	0.000	2,457.774	1,889.230	538.864	1,668.954

(注)1)トーン未満は四捨五入。ただし、数字が桁数でなければ小数点以下3桁まで記載は可。